



Cisco Crosswork Workflow Manager 1.0 ワークフロー作成者ガイド

初版：2023年6月1日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>



第 1 章

機能の概要

ここでは、次の内容について説明します。

- [概要](#) (1 ページ)
- [ワークフロー定義機能](#) (1 ページ)
- [状態](#) (6 ページ)
- [operation 状態の概要](#) (10 ページ)
- [Switch 状態の概要](#) (12 ページ)
- [Sleep 状態](#) (14 ページ)
- [Inject 状態](#) (14 ページ)
- [ForEach 状態](#) (15 ページ)
- [Parallel 状態](#) (16 ページ)
- [状態データ](#) (17 ページ)

概要

ワークフローは、ビジネスロジックの表現とモデリングの間のギャップを埋めるために、標準化された方法でビジネスプロセスを自動化するのに役立ちます。

ワークフロー定義は、Serverless Workflow [仕様](#)に基づいて作成されます。Crosswork Workflow Manager バージョン 1.0 では、仕様のサブセットのみがサポートされています。この章では、サポートされているすべての機能について説明し、各機能の実用的な例を示します。

ワークフロー定義機能

新しいワークフローは、JSON または YAML 形式で定義できます。ワークフロー定義の構造は「[仕様](#)」で説明されています。

サポートされる上位コンポーネントは次のとおりです。

- id
- name

- 説明
- version
- start
- retries
- errors
- functions
- 状態
- メタデータ

Toplevel フィールド

表 1: Toplevel フィールド

パラメータ	説明
id	ワークフローの一意的識別子。
name	ワークフロー名
version	セマンティックバージョンに基づくワークフローバージョン。
specVersion	この定義が準拠している Serverless Workflow 仕様リリースのバージョン。現在の実装は0.9仕様に従っています。
説明	ワークフローの説明テキスト。
start	最初に実行される状態。

JSON の例 :

```
{
  "id": "MyWorkflow",
  "version": "1.0.0",
  "specVersion": "0.9",
  "name": "My Workflow",
  "description": "My Workflow Description",
  "start": "SomeState",
  "states": [],
  "functions": [],
  "retries": []
}
```



- (注) JSON の代わりに YAML を使用する場合は、このマニュアルの例にコンバータを使用できません。

再試行定義

再試行定義は、ワークフローで実行されるアクティビティに割り当て可能なポリシーであり、ワークフローエンジンによる障害の処理方法、および障害発生時の再試行方法を制御します。

再試行定義の次のプロパティがサポートされています。

表 2: 再試行定義

パラメータ	定義
name	定義名。
delay	ISO 8601 形式での再試行間の時間遅延（例：30 秒の遅延の場合は「PT30S」）。
maxAttempts	最大試行回数。0：無限。再試行しない場合は、maxAttempts を 1 に設定する必要があります。
maxDelay	再試行間の最大遅延時間。ISO 8601 形式を使用します。
multiplier	各再試行の前に指定された場合、遅延値を乗算するために使用されます。浮動小数点値。たとえば、初期遅延が 30 秒で、乗数が 1.5 の場合、再試行回数は毎回 50% 増加します。

例：

```
"retries": [
  {
    "name": "Default",
    "delay": "PT1M",
    "maxAttempts": 5,
    "multiplier": 1.2
    "maxDelay": "PT3M"
  }
]
```

エラー定義

エラー定義では、ワークフローの実行中に発生する可能性のあるエラーを記述します。Serverless 仕様では、エラーをリストする外部ファイル（JSON や YAML）の参照がサポートされていますが、CWM はワークフロー定義で定義されたエラーのみを処理します。

エラー定義の次のプロパティがサポートされています。

表 3: エラー定義

パラメータ	定義
name	定義名。
code	返される可能性のあるエラーコード。現在、このフィールドはエラーマッチングには使用されていません。
説明	エラーメッセージの説明です。この説明は、アクティビティによって返されるエラーと照合するために使用されます。



(注) Serverless Workflow 仕様には、エラーメッセージを指定するオプションはないため、現在の説明がエラーとの照合に使用されます。

例 :

```
"errors": [
  {
    "name": "My Custom Error",
    "code": 0,
    "description": "Specific Error Message"
  }
]
```

関数定義

関数定義では、実行するワークフローで使用可能な関数と、その関数が呼び出されたときにエンジンによって呼び出されるアダプタとアクティビティの名前を記述します。Serverless Workflow 仕様ではさまざまなタイプの機能がサポートされますが、CWM ではアダプタを介して公開されるアクティビティにマッピングされるカスタムタイプの関数のみサポートされます。

関数定義の次のプロパティがサポートされています。

表 4: 関数定義

パラメータ	定義
name	関数定義の名前。

パラメータ	定義
operation	エンジンによって呼び出されるアダプタ名とアクティビティ名を定義します。形式は、<adapter name>.<activity name> です。たとえば、NSO アダプタには RestconfGet というアクティビティがあります。この operation は、ワーカーに登録されているアクティビティの名前（「RestconfGet」など）になります。この名前は、大文字と小文字が区別されることに注意してください。
メタデータ	Serverless Workflow 仕様のコア定義を超えた情報のモデリングを可能にします。「worker」キーは、アクティビティが実行されるタスクキューを定義するために使用されます。CWM 1.0 では、アクティビティを実行し、リスンするタスクキューが割り当てられるワーカーの概念がサポートされています。アクティビティの実行をスケジュールするために、ワークフローエンジンはアクティビティをタスクキューに配置します。ワーカープロセスは、タスクキューから実行するタスクを取得し、アクティビティを実行します。

例：

```
"functions": [
  {
    "name": "NSO.RestconfGet",
    "operation": "restconf_Get",
    "metadata": {
      "worker": "defaultWorker"
    }
  },
  {
    "name": "NSO.RestconfPut",
    "operation": "restconf_Put",
    "metadata": {
      "worker": "defaultWorker"
    }
  },
  {
    "name": "NSO.RestconfPost",
    "operation": "restconf_Post",
    "metadata": {
      "worker": "defaultWorker"
    }
  },
  {
    "name": "NSO.RestconfPatch",
    "operation": "restconf_Patch",
    "metadata": {
```

```

        "worker": "defaultWorker"
    }
},
{
    "name": "NSO.RestconfDelete",
    "operation": "restconf_Delete"
    "metadata": {
        "worker": "defaultWorker"
    }
},
{
    "name": "NSO.SyncFrom",
    "operation": "device_SyncFrom"
    "metadata": {
        "worker": "defaultWorker"
    }
},
{
    "name": "REST.Post",
    "operation": "rest_Post"
    "metadata": {
        "worker": "defaultWorker"
    }
}
} ]

```

状態

状態では、ワークフロー実行ロジックの構成要素を定義します。さまざまなタイプの状態により、実行エンジンに制御フローロジックが提供され、実行するアクティビティも定義できます。

Common 状態のプロパティ

次のプロパティはすべての状態に共通です。

表 5: Common 状態のプロパティ

パラメータ	定義
name	状態名。
タイプ	サポートされるタイプは、「operation」、「switch」、「sleep」、「inject」、「foreach」です。
transition	ワークフローの次の遷移：詳細については、以下を参照してください。Switch 状態には適用されません。Switch 状態の場合、transition オプションは条件ごとに定義されます。

パラメータ	定義
end	この状態の後にワークフローを終了する必要がある場合：詳細については、以下を参照してください。 <i>Switch</i> 状態には適用されません。 <i>Switch</i> 状態の場合、 <i>end</i> オプションは条件ごとに定義されます。
stateDataFilter	状態のフィルタデータ入力と出力：「sleep」状態には適用されません。
onErrors	特定の状態のエラー処理を定義します。詳細については、以下を参照してください。エラー定義に基づいて一致させることができ、補正を含む一致したエラーに基づいて <i>transition/end</i> を制御できます。
usedForCompensation	<i>true</i> の場合、この状態は別の状態を補うために使用されます。デフォルト： <i>false</i> 。
compensatedBy	この状態の補正の原因となる状態の一意の名前。ここで識別される状態は、 <i>transition/end</i> プロパティの「 <i>compensate</i> 」が <i>true</i> に設定されている場合に実行されます。



- (注) いずれの状態でも、1つの *transition* または *end* オブジェクトのみを指定できます。少なくとも1つ指定する必要があります。

補正

補正は、ワークフローの一部として実行された作業の取り消しを定義する方法を提供します。状態ごとに、補正状態を定義できます。実行中に、補正ロジックを実行する必要がある条件に達した場合は、*transition/end* を定義するときに「補正」フラグを設定できます。フラグは、実行状態、つまり **usedForCompensation** になります。詳細については、Serverless Workflow 仕様の「[Workflow Compensation](#)」を参照してください。

CWM 1.0の実装では、補正対象としてマークされた各状態がキューに追加されます。補正状態は、後入れ先出しの観点から実行されます。

Transition

Serverless 仕様では、追加のプロパティを持つ *string* または *object* として遷移を定義できます。Crosswork Workflow Manager は、*object* 形式のみをサポートしています。現在の CWM 1.0の実装では、「*nextState*」プロパティのみがサポートされています。

表 6: Transition

パラメータ	定義
nextState	ワークフローが次に遷移する状態の名前。
compensate	true に設定すると、次の遷移が行われる前にワークフロー補正がトリガーされます。デフォルト: false。

終了 (End)

Serverless 仕様では、end を string または追加のプロパティを持つ object として定義できます。Crosswork Workflow Manager は、object 形式のみをサポートしています。現在の CWM 1.0 の実装では、「nextState」プロパティのみがサポートされています。

表 7: End 状態

パラメータ	定義
強制終了	この状態でワークフローを終了するかどうかを定義するブール値。
compensate	true に設定すると、実行が完了する前にワークフロー補正がトリガーされます。デフォルト: false。

stateDataFilter

状態データフィルタを使用すると、入力および出力データフィルタを定義できます。入力データフィルタを使用すると、必要なデータを選択できます。出力データフィルタは、次の状態に遷移する前に適用されるため、次の状態に渡されるデータをフィルタ処理できます。状態データフィルタの詳細については、[こちら](#)を参照してください。入力フィルタと出力フィルタの両方が、jq で定義されたワークフロー式です。フィルタが指定されていない場合は、すべてのデータが渡されます。

表 8: stateDataFilter

パラメータ	定義
input	入力フィルタ jq 式。
output	出力フィルタ jq 式。

例 :

```
"states": [
  {
    "name": "step1",
```

```

        "type": "operation",
        "stateDataFilter" : {
            "input": "${ . }"
            "output": "${ . }"
        }
        "transition": {
            "nextState": "downloadImage"
        }
    },
    {
        "name": "step2",
        "type": "operation",
        "end": {
            "terminate": "true"
        }
    }
}

```

onErrors

ある状態の `onErrors` プロパティでは、状態の実行中に発生する可能性のあるエラーとその処理方法を定義します。`onErrors` の詳細については、[こちら](#)を参照してください。

表 9: `onErrors`

パラメータ	定義
<code>errorRef</code> または <code>errorRefs</code>	この状態に一致する単一の <code>errorDef</code> または <code>errorDefs</code> の配列を定義します。
<code>transition</code>	状態で返されたエラーが <code>errorRef/errorRefs</code> のエラーの説明のいずれかと一致する場合のワークフローの次の遷移。 <code>transition</code> または <code>end</code> のみを定義できます。
<code>end</code>	状態で返されたエラーが <code>errorRef/errorRefs</code> のエラーの説明のいずれかに一致する場合、ワークフローは終了する必要があります。 <code>transition</code> または <code>end</code> のみを定義できます。

例 :

```

"onErrors": [
    {
        "errorRef": "My Custom Error",
        "end" : {
            "terminate": true
            "compensate": true
        }
    }
]

```

operation 状態の概要

Serverless Workflow 仕様に従って、operation 状態では、順次または並列実行される一連のアクションを定義します。Crosswork Workflow Manager は、アクションの順次実行のみをサポートしています。

1つのアクションで、3つの異なるタイプのサービスの起動を定義できます。

- 関数定義の実行。
- 子ワークフローとしての別のワークフロー定義の実行（現在の実装ではサポートされていません）。
- 「生成」または「消費」される可能性のあるイベントの参照（現在の実装ではサポートされていません）。



(注) 現在の実装では、関数定義の実行のみがサポートされています。

アクション

アクション定義では、この状態に対して実行する必要がある関数を指定します。次のプロパティがサポートされています。

パラメータ	説明
name	アクション名。
functionRef	実行する関数の名前を定義するオブジェクト。必要に応じて、関数が指すアクティビティに渡す引数を定義します。詳細については、以下を参照してください。
retryRef	グローバルに定義された再試行定義の名前。例：default。
sleep	アクションの実行前後のスリープ時間を任意で定義するオブジェクト。詳細については、以下を参照してください。
actionDataFilter	アクションに渡す必要があるデータ、アクションによって返される結果をフィルタ処理する方法、およびグローバル状態データ内のフィルタ処理結果の保存場所を制御するフィルタ。詳細については、以下を参照してください。

functionRef

パラメータ	説明
refName	関数定義を参照する関数の名前。

パラメータ	説明
引数	関数に渡される引数。複雑な構造のJSONオブジェクトを指定できます。アダプタアクティビティの場合、構造はJSONである必要があります（以下を参照）。 <pre>{ "input": { ... }, "resource": { ... } }</pre>

actionDataFilter

例を含む actionDataFilter の詳細については、[こちら](#)を参照してください。

パラメータ	説明
fromStateData	状態データのデータをフィルタ処理して関数に渡す jq のワークフロー式。
useResults	関数の実行から返されたデータを状態データ出力に追加またはマージするかどうかを制御するブール型フラグ。
results	関数の実行から返されたデータをフィルタ処理する jq のワークフロー式。 useResults が false の場合は無視されます。デフォルト：true。
toStateData	ワークフロー式では、結果を追加またはマージする必要がある状態データを定義します。指定しない場合、結果は最上位レベルでマージされます。

sleep

パラメータ	説明
before	関数実行前のスリープ時間。例：ISO 8601 形式「PT30S」の場合、30 秒間スリープ。
after	関数実行後のスリープ時間。例：ISO 8601 形式「PT30S」の場合、30 秒間スリープ。

```
{
  "id": "example",
  "version": "1.0",
  "specVersion": "0.9",
  "start": "step1",
  "functions": [
    {
      "name": "NSO.RestconfPost",
      "operation": "RestconfPost"
    }
  ],
  "retries": [
    {
      "name": "Default",
      "maxAttempts": 5,

```

```

        "delay": "PT30S",
        "multiplier": 1.1
      }
    ],
    "states": [
      {
        "name": "step1",
        "type": "operation",
        "sleep": {
          "before": "PT1M"
        },
        "actions": [
          {
            "retryRef": "Default",
            "name": "showVersion",
            "functionRef": {
              "refName": "NSO.RestconfPost",
              "arguments": {
                "input": {
                  "path": "restconf/operations/devices/device=${
                    .deviceName }/live-status/taillf-ned-cisco-ios-stats:exec/any",
                  "data": "{\"input\": {\"args\": \"show version\"}}"
                }
              }
            },
            "actionDataFilter": {
              "results": "${ if (.data) then .data |
fromjson.\"taillf-ned-cisco-ios-stats:output\".result else null end }",
              "toStateData": "${ .showVersionPreCheck }"
            }
          }
        ],
        "end": {
          "terminate": "true"
        }
      }
    ]
  }
}

```

Switch 状態の概要

Switch 状態では、特定の条件に基づいてワークフローを特定のパスにルーティングするための決定ポイントを定義できます。Serverless Workflow 仕様では、データベースの条件とイベントベースの条件がサポートされています。CWM は、「[データベースの条件](#)」のみをサポートしています。

dataConditions

Switch 状態のデータ条件プロパティは、実行エンジンによって評価される一連の条件です。実行エンジンは、一致する最初の条件を選択し、そのパスに沿って処理を続行します。後続の条件も一致する場合、それらの条件は無視されます。

パラメータ	説明
name	条件名。

パラメータ	説明
condition	条件を表すjqのワークフロー式。評価はtrue/falseである必要があります。
transition	条件が一致する場合のワークフローの次の遷移。
end	条件が一致する場合、ワークフローは終了する必要があります。



(注) transition オブジェクトまたは end オブジェクトのみを指定できます。少なくとも1つ指定する必要があります。

defaultCondition

一致する条件がない場合に適用されるデフォルトの条件。

パラメータ	説明
transition	ワークフローの次の遷移（条件が一致しない場合）。
end	条件が一致する場合、ワークフローは終了する必要があります。



(注) transition オブジェクトまたは end オブジェクトのみを指定できます。少なくとも1つ指定する必要があります。

```
{
  "name": "ConditionName",
  "type": "switch",
  "dataConditions": [
    {
      "name": "IsTrue",
      "condition": "${ true }",
      "transition": {
        "nextState": "TrueState"
      }
    },
    {
      "name": "IsFalse",
      "condition": "${ false }",
      "transition": {
        "nextState": "FalseState"
      }
    }
  ],
  "defaultCondition": {
    "end": {
      "terminate": true
    }
  }
}
```

Sleep 状態

Sleep 状態は、指定された期間、ワークフローの実行を一時停止します。

パラメータ	説明
duration	ワークフローがスリープする時間（ISO 8601 形式）。たとえば、PT1M の場合、ワークフローは 1 分間スリープ状態になります。

```
{
  "name": "Sleep3Minutes",
  "type": "sleep",
  "duration": "PT3M",
  "transition": {
    "nextState": "NextState"
  }
}
```

Inject 状態

Inject 状態は静的データを状態データに挿入するために使用されます。

パラメータ	説明
data	JSON オブジェクトが状態データに追加されました。

```
{
  "id": "example",
  "version": "1.0",
  "specVersion": "0.9",
  "start": "HelloWorld",
  "states": [
    {
      "name": "HelloWorld",
      "type": "inject",
      "data": {
        "name": "Cisco",
        "message": "Hello World"
      },
      "stateDataFilter": {
        "output": "${ .message + \" from \" + .name + \"!\" }"
      },
      "end": {
        "terminate": "true"
      }
    }
  ]
}
```

ForEach 状態

ForEach 状態では、状態データで定義された配列またはリストの各要素に対して実行する一連のアクションを定義できます。たとえば、デバイス配列内の各デバイスについて、デバイスが同期していることを確認します。Serverless Workflow 仕様では、アクションの並列実行と順次実行のサポートが定義されていますが、現在の実装では、配列内の各要素に対するアクションの順次実行のみがサポートされています。

パラメータ	説明
inputCollection	状態データの配列を指す jq のワークフロー式。
iterationParam	各データ要素のアクションで参照できるパラメータの名前。
outputCollection	結果が追加される状態データの配列を指す jq のワークフロー式。配列が存在しない場合は作成されます。

```
{
  "id": "example",
  "version": "1.0",
  "specVersion": "0.9",
  "start": "InjectData",
  "functions": [
    {
      "name": "HelloWorld",
      "operation": "HelloWorld"
    }
  ],
  "states": [
    {
      "name": "InjectData",
      "type": "inject",
      "data": {
        "people": [
          {
            "Firstname": "Peter",
            "Surname": "Parker"
          },
          {
            "Firstname": "Thor",
            "Surname": "Odinson"
          },
          {
            "Firstname": "Bruce",
            "Surname": "Banner"
          }
        ]
      },
      "transition": {
        "nextStat": "SayHelloToEveryone"
      }
    },
    {
      "name": "SayHelloToEveryone",
      "type": "foreach",
      "inputCollection": "${ .people }",
      "iterationParam": "person",

```

```

        "outputCollection": "${ .messages }",
        "actions": [
            {
                "name": "SayHello",
                "functionRef": {
                    "refName": "HelloWorld",
                    "arguments": {
                        "name": "${ .person.Firstname + \" \" + .person.Surname
                    }
                }
            }
        ],
        "end": {
            "terminate": "true"
        }
    }
]
}

```

Parallel 状態

Parallel 状態では、並行して実行されるブランチのコレクションを定義できます。ある状態の各ブランチでは、独自のアクションセットを定義できます。実行が完了すると、**completionType** 属性に基づいて並列ブランチが現在のパスに結合されます。

completeType 属性では、次の2つの値を定義できます。

- **allOf** : 状態が **transition/end** になる前に、すべてのブランチが実行を完了する必要があります。これはデフォルト値です。
- **atLeast** : **atLeast** で指定された数のブランチの実行が完了した場合、状態は **transition/end** になります。 **completeType** 属性が「**atLeast**」の場合は、**numCompleted** も設定する必要があります。

パラメータ	説明
completionType	ブランチの実行に基づいて状態の完了を評価する方法を定義します。「 allOf 」または「 atLeast 」。デフォルト：「 allOf 」
numCompleted	completeType が「 atLeast 」の場合、この値を指定する必要があります。実行を続けるために完了する必要があるブランチの最小数を定義します。

ブランチ

Parallel 状態で実行されるブランチのリスト。詳細については、[こちら](#)を参照してください。

パラメータ	説明
name	ブランチの名前。

パラメータ	説明
アクション	このブランチに対して実行するアクション。1つのブランチで一連のアクションをサポートできます。各アクションの定義は、operation 状態タイプと同じです。 こちら を参照してください。

状態データ

状態データは、ワークフローのライフサイクル中に重要な役割を果たします。状態により、データのフィルタ処理、データの挿入、およびデータの追加ができます。Jqは、データのフィルタ処理、作成、および操作で重要な役割を果たします。データの処理方法の詳細については、「[Serverless Workflow 仕様](#)」を参照してください。

ワークフローを作成する場合、CMW内のデータ管理に関しては、次のルールが適用されます。

- ワークフローの実行に渡される初期データは、入力として状態データに渡されます。
- 最後に実行された状態からのデータ出力は、ワークフロー出力です。
- 状態入力フィルタが指定されていない場合、すべてのデータが状態に渡されます。
- 状態出力フィルタが指定されていない場合、すべてのデータが次の状態に渡されます。
- jq のワークフロー式を使用すると、データをフィルタ処理および操作できます。
- アクションでも、データをフィルタ処理できます。また、アクションからの戻りデータを状態データにマージする必要がある場合にも使用できます。
- フィルタは JSON オブジェクトを返す必要があります。jq ワークフロー式の結果が文字列リテラルになると、エラーが発生します。
- jq を使用する場合は、<https://jqplay.org/> を使用して jq 式をテストすることを強く推奨します。あるいは、jq をローカルにダウンロードしてテストに使用できます。



第 2 章

ワークフローの作成チュートリアル

ここでは、次の内容について説明します。

- [ワークフローの作成：チュートリアル](#) (19 ページ)

ワークフローの作成：チュートリアル

この章では、`operation` および `switch` 状態を使用する簡単な例に基づいてワークフローを構築し、いくつかのシミュレートされたデバイス用の VPN サービスを Cisco NSO で作成する方法について説明します。サンプルワークフロー定義を部分的に説明し、元のワークフローを作成する際にさまざまな定義コンポーネントを使用する方法を示します。

ワークフローの定義方法に関する完全な情報が必要な場合は、「[Serverless Workflow 仕様](#)」を参照してください。

サンプルワークフローの概要

ワークフローは、JSON または YAML で記述できます。この例では、JSON 形式を選択します。

このサンプルワークフローの目的は、Cisco NSO デバイス用の VPN サービスを自動的に作成することです。

まず、データ入力でデバイスをポイントし、ポイントしたデバイスに対して NSO `check-sync` 操作の実行を試みます。結果に応じて以下の手順を実行します。

- 同期していない場合は、デバイスをプッシュして `sync-from` を実行してから、そのデバイスの VPN の作成を試みます。
- 同期している場合は、`sync-from` は実行せず、デバイスの VPN を直接作成します。

すべてのステップが正常に実行されると、CWM はワークフロー実行の完了を報告し、最終データ入力を表示します。結果は Cisco NSO でも確認できます。ステップの実行中にエンジンでエラーが発生すると、指定された `retry` ポリシーが使用されます。再試行の制限を超えてエラーが続く場合、実行エンジンは実行を [失敗 (Failed)] ステータスで終了します。

データ入力、関数、状態、アクション、およびデータフィルタの定義方法の詳細については、以下のセクションを参照してください。

データ入力の提供

ワークフロー定義には、通常、JSON ファイルの先頭に複数の入力データが含まれています。提供されたデータはワークフローの一部ではありませんが、ワークフロー定義内で参照され、該当するデータ更新が定義されている場合は、状態間でも更新できます。詳細については、Serverless Workflow 仕様の「[Workflow data input](#)」を参照してください。

クイックスタートの例では、2つのユーザー定義の `deviceName` JSON オブジェクトキーと値（ローカル NSO インスタンスのテストデバイスの名前）、およびワークフローで使用される CWM リソースを指定する `nsoResource` キーのみを指定する必要があります。したがって、JSON のワークフローデータ入力は次のようになります。

```
{
  "device0Name": "ce0",
  "device1Name": "ce1",
  "nsoResource": "NSOLocal"
}
```

トップレベルのパラメータと関数

ワークフロー定義は、必須のワークフロー `id` キーで始まります。他のキーでは、`specVersion` も必要です。このキーは、Serverless Workflow 仕様のリリースバージョンを定義します。`start` キーでは、ワークフローの開始状態の名前を定義しますが、必須ではありません。`functions` キーでは、Cisco NSO アダプタアクティビティ名を関数 `name` として渡し、アダプタアクティビティ ID を関数 `operation` として渡し、`metadata:worker` キーの下にワーカー名を指定します。

```
{
  "id": "CreateL3VPN",
  "version": "1.0",
  "specVersion": "0.9",
  "name": "Create Layer3 VPN",
  "description": "Create an L3 VPN for MPLS devices",
  "start": "start",
  "functions": [
    {
      "name": "NSO.RestconfPost",
      "operation": "cisco.nso.v1.0.0.restconf.Post",
      "metadata": {
        "worker": "cisco.nso.v1.0.0"
      }
    }
  ],
}
```



(注) 実際には、`functions` では、Cisco NSO アダプタで定義され、`main.go` ファイルに表示されるアクティビティの ID をワークフローに提供します。また、`metadata` では、定義された関数を参照するアクションを実行するワーカーの名前を指定します。

再試行ポリシーの指定

`retries` キーを使用して、アクションが失敗した場合の状態アクションの再試行ポリシーを定義します。このキーでは複数の再試行ポリシーを指定でき、複数の定義済み状態アクションで再利用できます。

```
"retries": [
  {
    "name": "Default",
    "maxAttempts": 4,
    "delay": "PT5S",
    "multiplier": 2
  },
  {
    "name": "Custom",
    "maxAttempts": 2,
    "delay": "PT30S",
    "multiplier": 1
  }
],
```



- (注) 表示されているように、Default ポリシーは、失敗したアクションが最大 4 回再試行されることを前提としています。連続した再試行の場合、試行の間の遅延秒数は 5、10、20、40 秒と増加します。

状態の定義

ワークフロー状態は、ワークフロー定義の構成要素です。このクイックスタートの例では、`operation` と `switch` の状態を使用しますが、他の状態も使用できます。詳細については、Serverless 仕様の「[Workflow states](#)」セクションを参照してください。

operation 状態

```
"states": [
  {
    "name": "start",
    "type": "operation",
    "stateDataFilter": {
      "input": "${ . }"
    },
    "actions": [],
    "transition": {
      "nextState": "syncFromOrCreateVPN"
    }
  }
],
```

`operation` 状態の内部では、状態の `name` と `type` とは別に以下を定義します。

- `stateDataFilter` : サンプル JSON ファイルの先頭に定義されているデータ入力を指します。input パラメータでは、`${ . }` と記述します。これは、ワークフロー実行時点で存在するデータ入力全体を使用することを意味する jq 式です。



(注) ワークフローでの jq 式の使用方法の詳細については、**Serverless Workflow** 仕様の「[Workflow expressions](#)」の章を参照してください。

- **actions** : アクションで使用する関数と、2つの基本 **arguments** : **input** と **config** を指定します。詳細については、以下のサブセクションを参照してください。
- **transition** または **end** : 現在の状態を実行後にワークフローが遷移する次の状態を指します。追加で実行する手順がない場合は、**end** を使用します。

switch 状態

```
{
  "name": "syncFromOrCreateVPN",
  "type": "switch",
  "dataConditions": [
    {
      "name": "shouldSyncFrom",
      "condition": "${ if (.checkSyncResult0) then .checkSyncResult0 != \"in-sync\"
else null end }",
      "transition": {
        "nextState": "syncFrom"
      }
    },
    {
      "name": "shouldCreateVPN",
      "condition": "${ if (.checkSyncResult0) then .checkSyncResult0 == \"in-sync\"
else null end }",
      "transition": {
        "nextState": "createVPN"
      }
    }
  ]
}
```

switch 状態の内部では、状態の **name** と **type** とは別に以下を定義します。

- **dataConditions** : 指定された次の状態に遷移するデバイスが満たす条件を定義します。switch 状態は、ステータスに基づいてデバイスを適切な状態に誘導するワークフローの「ゲートウェイ」として表示できます。condition パラメータで jq 式 `${ if (.checkSyncResult0) then .checkSyncResult0 == \"in-sync\" else null end }` を使用して、ブール値を作成します。ブール値が **true** の場合、デバイスを **CreateVPN** 状態に直接遷移するために使用されます。

アクションの指定

デバイス **ce0** の operation 状態の **checkSync** アクションに基づいて **actions** を分析します。

```
{
  "name": "checkSync",
  "retryRef": "Default",
  "functionRef": {
```

```

"refName": "NSO.RestconfPost",
"arguments": {
  "input": {
    "path": "restconf/operations/tailf-ncs:devices/device=${ .device0Name }/check-sync"
  },
  "config": {
    "resourceId": "${ .nsoResource }"
  }
},
"actionDataFilter": {
  "results": "${ if (.data) then .data | fromjson.\"tailf-ncs:output\".result else null end }",
  "toStateData": "${ .checkSyncResult0 }"
}
}

```

使用可能なパラメータの中でも、次の2つは特に役立ちます。

- **functionRef** : アクションの実行で使用される関数 (NSO アダプタの観点からはアクティビティ) を参照します。ここでは、いくつかの引数を渡す必要があります。
 - **input** :
 - **path** : 要求を送信するアダプタのパスを指します。
 - **data** : 要求に含めるデータを転送します (checkSync アクションには適用されません)。
 - **config** :
 - **resourceId** : 外部サービス用に作成したリソースの ID を指定します。サンプルワークフローでは、Cisco NSO インスタンスのローカルホストとデフォルトポートが指定されています。リソースは、外部サービスの認証データを提供するために使用されるシークレット ID も指します。この場合は、username と password を Cisco NSO インスタンスに提供します。
- **actionDataFilter** : NSO からの checkSync 応答で渡されるデータの処理方法を定義します。
 - **results** : jq 式 "\${ if (.data) then .data | fromjson.\"tailf-ncs:output\".result else null end }" を使用して、着信 NSO データを処理します。fromjson を使用して、結果の tailf-ncs:output を JSON 形式に変換し、.result を使用して result のキー値をチェリーピックします。この場合 (デバイスが in-sync 状態の場合)、式の出力は「in-sync」になります。
 - **toStateData** : 前述の results パラメータで定義された式の出力を取得し、選択した名前 (この場合は .checkSyncResult0) でワークフロー入力データ内にキーと値のペアとして保存します。

サンプルワークフローの定義

次のサンプルワークフローの定義は、この章で説明するワークフロー作成プロセスの最終結果です。

```
{
  "id": "CreateL3VPN-1.0",
  "name": "CreateL3VPN",
  "start": "start",
  "states": [
    {
      "name": "start",
      "type": "operation",
      "actions": [
        {
          "name": "checkSync",
          "retryRef": "Default",
          "functionRef": {
            "refName": "NSO.RestconfPost",
            "arguments": {
              "input": {
                "path": "restconf/operations/tailf-ncs:devices/device=${ .device0Name
}/check-sync"
              },
              "config": {
                "resourceId": "${ .nsoResource }"
              }
            },
            "actionDataFilter": {
              "results": "${ if (.data) then .data | fromjson.\"tailf-ncs:output\".result
else null end }",
              "toStateData": "${ .checkSyncResult0 }"
            }
          },
          {
            "name": "checkSync",
            "retryRef": "Default",
            "functionRef": {
              "refName": "NSO.RestconfPost",
              "arguments": {
                "input": {
                  "path": "restconf/operations/tailf-ncs:devices/device=${ .device1Name
}/check-sync"
                },
                "config": {
                  "resourceId": "${ .nsoResource }"
                }
              },
              "actionDataFilter": {
                "results": "${ if (.data) then .data | fromjson.\"tailf-ncs:output\".result
else null end }",
                "toStateData": "${ .checkSyncResult1 }"
              }
            },
            "transition": {
              "nextState": "syncFromOrCreateVPN"
            },
            "stateDataFilter": {
              "input": "${ . }"
            }
          }
        ]
      }
    }
  ]
}
```

```

    },
    {
      "name": "syncFromOrCreateVPN",
      "type": "switch",
      "dataConditions": [
        {
          "name": "shouldSyncFrom",
          "condition": "${ if (.checkSyncResult0) then .checkSyncResult0 != \"in-sync\"
else null end }",
          "transition": {
            "nextState": "syncFrom"
          }
        },
        {
          "name": "shouldCreateVPN",
          "condition": "${ if (.checkSyncResult0) then .checkSyncResult0 == \"in-sync\"
else null end }",
          "transition": {
            "nextState": "createVPN"
          }
        },
        {
          "name": "shouldSyncFrom",
          "condition": "${ if (.checkSyncResult1) then .checkSyncResult1 != \"in-sync\"
else null end }",
          "transition": {
            "nextState": "syncFrom"
          }
        },
        {
          "name": "shouldCreateVPN",
          "condition": "${ if (.checkSyncResult1) then .checkSyncResult1 == \"in-sync\"
else null end }",
          "transition": {
            "nextState": "createVPN"
          }
        }
      ],
      "defaultCondition": {
        "end": {
          "terminate": true
        }
      }
    },
    {
      "name": "syncFrom",
      "type": "operation",
      "actions": [
        {
          "name": "syncFrom",
          "retryRef": "Default",
          "functionRef": {
            "refName": "NSO.RestconfPost",
            "arguments": {
              "input": {
                "path": "restconf/operations/tailf-ncs:devices/device=${ .device0Name
}/sync-from"
              }
            },
            "config": {
              "resourceId": "${ .nsoResource }"
            }
          }
        },
        {
          "actionDataFilter": {

```

```

        "results": "${ if (.data) then .data | fromjson.\"tailf-ncs:output\".result
else null end }",
        "toStateData": "${ .syncFromResult0 }"
    },
    {
        "name": "syncFrom",
        "retryRef": "Default",
        "functionRef": {
            "refName": "NSO.RestconfPost",
            "arguments": {
                "input": {
                    "path": "restconf/operations/tailf-ncs:devices/device=${ .deviceName
}/sync-from"
                },
                "config": {
                    "resourceId": "${ .nsoResource }"
                }
            }
        },
        "actionDataFilter": {
            "results": "${ if (.data) then .data | fromjson.\"tailf-ncs:output\".result
else null end }",
            "toStateData": "${ .syncFromResult1 }"
        }
    },
    ],
    "transition": {
        "nextState": "createVPN"
    }
},
{
    "end": {
        "terminate": true
    },
    "name": "createVPN",
    "type": "operation",
    "actions": [
        {
            "name": "createVPN",
            "retryRef": "Custom",
            "functionRef": {
                "refName": "NSO.RestconfPost",
                "arguments": {
                    "input": {
                        "data":
"

```
\"path\": \"restconf/data/l3vpn:vpn\"
\",
\"path\": \"restconf/data/l3vpn:vpn\"
\",
\"config\": {
 \"resourceId\": \"${ .nsoResource }\"
}
}
\",
\"actionDataFilter\": {
 \"results\": \"${ if (.status) then .status else null end }\",
 \"toStateData\": \"${ .createServiceResult }\"
}
}
\",
\"retries\": [

```


",
                    "path": "restconf/data/l3vpn:vpn"
                },
                "config": {
                    "resourceId": "${ .nsoResource }"
                }
            }
        },
        "actionDataFilter": {
            "results": "${ if (.status) then .status else null end }",
            "toStateData": "${ .createServiceResult }"
        }
    ]
},
],
"retries": [

```

```
{
  "name": "Default",
  "delay": "PT30S",
  "multiplier": 2,
  "maxAttempts": 4
},
{
  "name": "Custom",
  "delay": "PT10S",
  "multiplier": 1,
  "maxAttempts": 2
}
],
"version": "1.0",
"functions": [
  {
    "name": "NSO.RestconfPost",
    "metadata": {
      "worker": "cisco.nso.v1.0.0"
    },
    "operation": "cisco.nso.v1.0.0.restconf.Post"
  }
],
"description": "",
"specVersion": "0.9"
}
```

CWM および Cisco NSO で具体的な結果を得るためのサンプルワークフローの実行方法に関する完全な手順については、[クイックスタートガイド \[英語\]](#) を参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。